

2017年10月10日
内閣府知的財産戦略推進事務局
実務者検討委員会

デジタル・アーカイブの活用 ～学びの場での活用事例 NHK・Yahoo!ニュースから～

資料 9

ヤフー株式会社 クオリティ・コントロール室
立教大学大学院 21世紀社会デザイン研究科
宮本 聖二

自己紹介

- ・ 1981年 NHK入社 鹿児島、鳥取、沖縄放送局
- ・ 報道局解説委員室 アジアセンター デスク
- ・ おはよう日本 チーフ・プロデューサー
- ・ 編成局 海外ドラマ BS世界のドキュメンタリー
- ・ 知財展開センター アーカイブズ部
- ・ 「FIAT/IFTA 国際映像アーカイブズ連盟」理事
- ・ 「戦争証言プロジェクト」、「東日本大震災証言プロジェクト」
- ・ NHK放送研修センター
- ・ Yahoo!ニュース クオリティ・コントロール室
- ・ 立教大学大学院

映像コンテンツを中心にした デジタル・アーカイブ

NHK戦争証言アーカイブス
NHK東日本大震災アーカイブス
NHK映像マップ みちしる
新日本風土記アーカイブス
NHK戦後史証言アーカイブス

Yahoo!ニュース 未来に残す
戦争の記憶

災害とデジタル・アーカイブ

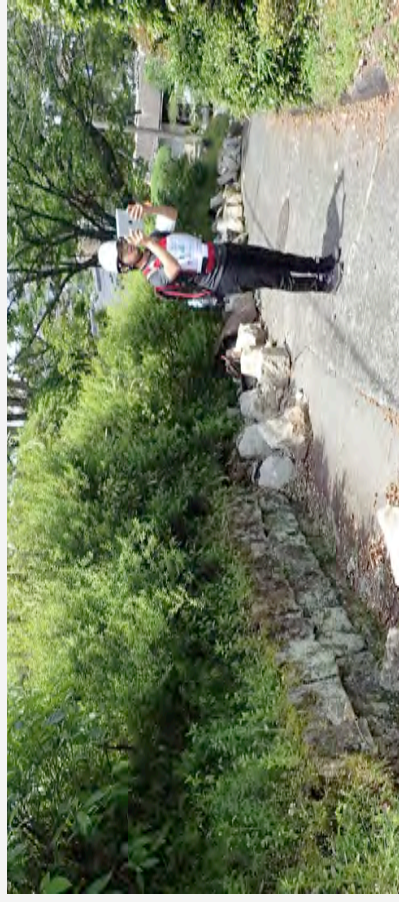
災害の記録～地域の記録

福島・原発避難者



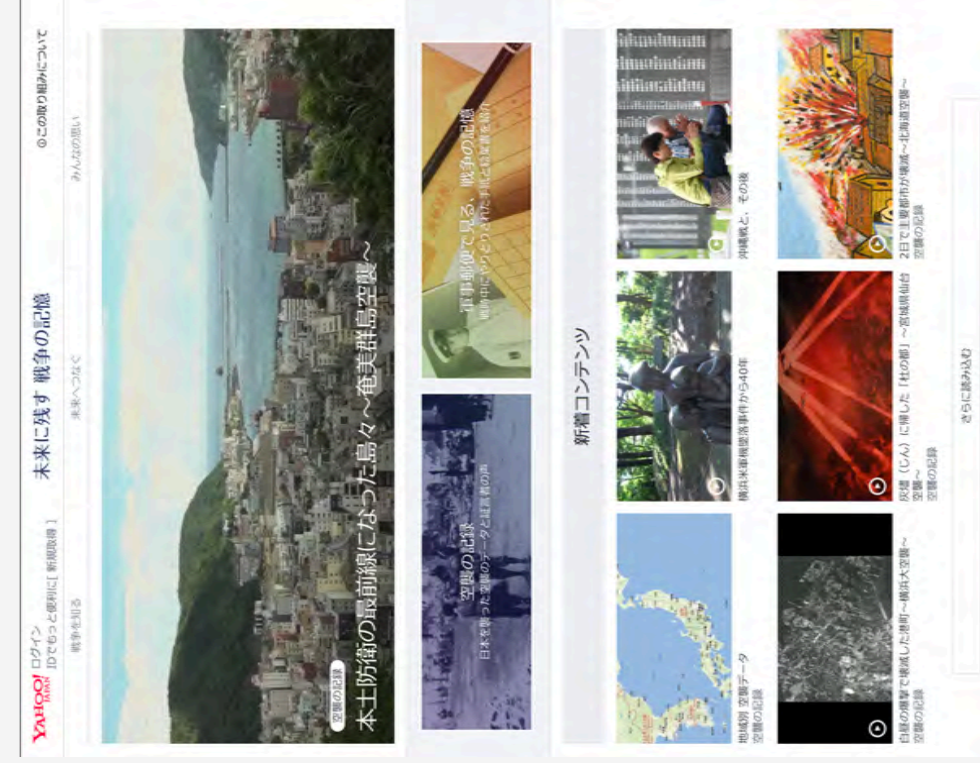
宮城・石巻、避難行動の記録

Copyright © 2016 Yahoo Japan Corporation. All Rights Reserved.



熊本・益城町 被災状況・被災体験





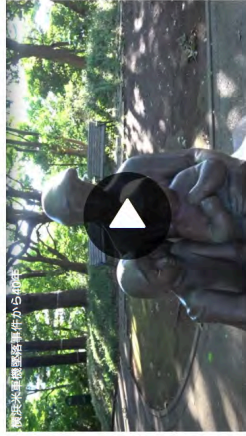
戦争体験を動画で未来に

ヤフーオリジナル番組
全国のCATV局の番組
体験者の証言の動画

空襲に関する
市区町村別被災データ

他メディアとの連携・共同制作

[ログイン](#)
[IDでもっと便利に【新取得】](#)
[未来に残す戦争の記憶](#)
[未来へつなぐ](#)
[みんなの思い](#)



1977年9月27日、神奈川県横浜市郊外に米軍機が墜落し、三人の母子の命が奪われました。長年にわたってこの事故を取材してきた神奈川新聞はとどめに、記事とコンテンツを制作、事故の経緯と関係する人々にどのような影響をおよぼしたのかを伝えます。

解説記事

事故で奪われた母と二人の子の命

終戦から30年余を記した1977年、安宅康典期に入り、大規模な宅地開発が進む横浜郊外の住宅地に、米軍機が墜落しました。2人の幼児が犠牲になった墜落現場に、その痕跡は残っており、今なお、その上を米軍機が飛び交います。遺族らは静かに、悲惨な事故を語り継いできました。



紙面・写真アーカイブを活用



Yahoo!ニュース 「未来に残す戦争の記憶」

他メディアとの連携・共同制作



沖縄戦と、その後



3分で知る沖縄戦

1945年3月に始まった「沖縄戦」は、6月23日組織的戦況が終結しました。住民を巻き込んだ激しい地上戦となり、多くの命が失われました。



3分で知る沖縄戦

“世界一危険な基地”

沖縄戦終結後、日本から切り離され米軍の軍政下におおわれました。米軍は、沖縄を軍事拠点とするため土地を没収して基地の整備・拡張を進めました。

解説記事

沖縄戦の終結～基地の周・オキナワの始まり～

1945年3月に始まった沖縄戦は6月23日に日本軍の牛島満司令官の自決により、組織的な戦況が終りました。

沖縄戦の特徴は、住民を巻き添えにした激しい地上戦が挙げられます。これにより老人や子どもを含む多くの住民が戦害に巻き込まれました。



アーカイブ映像/沖縄県公文書館



うるま新報(琉球新報前身)の紙面(アーカイブから)

NHK戦争証言アーカイブス

The collage features several educational items related to the Pacific War:

- Top Left:** A small photo of a ship, likely the USS Arizona, with the text "戦艦アリゾナ" (Battleship Arizona).
- Top Center:** A map of the Pacific Ocean showing the progression of the war. A red line indicates the path of the war, starting from the Philippines and moving towards Japan. A blue line indicates the path of the war, starting from Japan and moving towards the Philippines. The map is titled "太平洋戦争" (Pacific War).
- Top Right:** A timeline of the Pacific War, showing key events from 1941 to 1945. The timeline is titled "太平洋戦争の経緯" (Course of the Pacific War).
- Bottom Left:** A photo of a group of people, likely soldiers, with the text "戦艦アリゾナ" (Battleship Arizona).
- Bottom Center:** A photo of a ship, likely the USS Arizona, with the text "戦艦アリゾナ" (Battleship Arizona).
- Bottom Right:** A photo of a ship, likely the USS Arizona, with the text "戦艦アリゾナ" (Battleship Arizona).

関連番組98本 配信

記憶を記録に

大本營

陸軍部發表

十二月八日午前六時

日本ニュース 256号

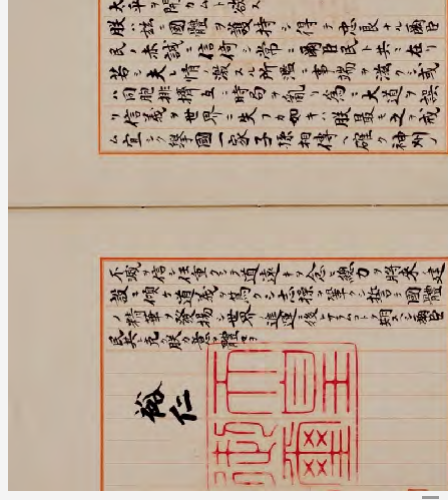


日本ニュース 79号

Copyright © 2016 Yahoo Japan Corporation. All

[illegible]

証言動画 1400人

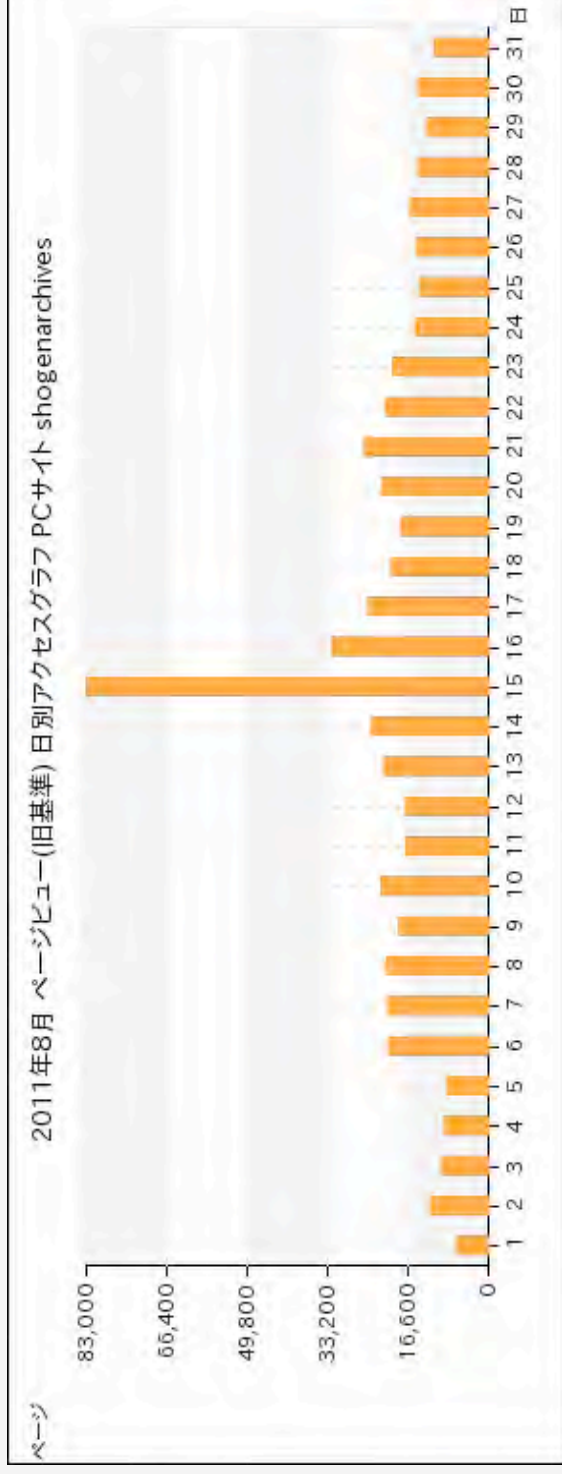


玉音放送

終戦の詔書

“季節ものの”にしないために

「NHK戦争証言アーカイブス」



課題：通年で利用者を確保すること

利用の拡大のために

○ 誰が使うのか を想定

学校や家庭での教育利用

とくに、小学校から大学まで 教育現場で利用されれば
まとまった数の利用者があるはず

○ 教育活用のページを公開(2013年夏)

- ・ 授業内で短い「解説動画」の提供
- ・ 授業実施の働きかけ
- ・ マニュアルになる資料の作成と配布

教育現場などで利用されるために

○ 授業の映像を配信

見本・サンプルとして活用してもらう

○ 年齢別にキュレーションページを制作

中学・高校生向け 「女子生徒たちの沖縄戦」

小学生向け 「マンガで学ぶ戦争体験」

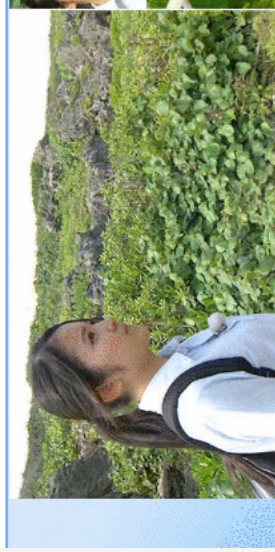
○ 研究者による利用（論文作成など） 「戦争とトラウマ」

教育人口の減少

地図から検索



地図から検案表



女子学徒たちの沖縄戦

1945年（昭和20年）3月からおおよそ3か月間の地上戦で、20万人を超す死者を出した「沖繩戦」。いまは高校生にわたる女子学校や専門学校に生徒が、戦場に盛り出され、多くの少女が命を失いました。しかも、戦争が終わっても、生計を立てた人々が戻るまで母校の多くは消え去っていました。沖繩本島の南部には廃墟と化したのです。しかし、生計を立てた女性たちは、その中から立ち上がり、沖縄の復興を支え、戦中までの体面から平和のよさを伝える活動を開始してきました。そしてその体面から立ち上がった女性たちと同じく世世代代、沖縄3年生 宮崎花澄さんです。女子学生として沖縄本島南部の戦場で過酷な体験をした方と共に、戦跡を訪ねました。花澄さんは、どんなことを感じたのでしょうか。

なだらん学芸会・高古・高女学芸会・八重山高女学芸会を追加しました。(2014.08.06)

太平洋戦争と空襲

第二次世界大戦では、市民が空からの爆撃の恐怖にさらされました。太平洋戦争末期には、米軍による日本空襲で40万人もの市民が犠牲となり、66の都市が焼失しました。爆撃や焼夷攻撃にさらされ、家族を失った人々の証言や関連する写真、当時のニュースで、どのように空襲が行われ、人々の命と暮らしが奪われたのを知ってください。また、空襲に関して関連する動画もご覧いただけます。さらに、この動画を観るのになったってください。



空襲 (7分20秒)

航空機が戦場の主役になった第二次世界大戦では、「空襲」によって数多くの都市が壊滅化し、世界で100万人もの市民が犠牲になりました。抵抗することでもできないまま、市民が命を奪われる「空襲」とはどんなものだったのでしょうか。



B29による初の日本本土空襲～北九州～

太平洋戦争中の運合面による日本本土空襲は、昭和17年4月の海上の機動部隊から中型爆撃機B25を発進させたドーリトル隊によるものが初

その後、航続距離が長い上に、大量の爆弾を搭載できるB29爆撃機を開

特集「太平洋戦争と空襲」



「戦争」を半ふ短編動画



(附549) 無效

子どもたちに戦時中の生活や戦いの様子などを伝えるため「戦争を学ぶ漫画講座」を公開しています。絵画中の空襲や戦争体験者の証言など、わかりやすい構成。「戦争」「戦時中」「戦争映画」などのキーワードを中心に4分から7分程度でまとめています。



太平洋戦争 (7分14秒)

太平洋戦争は、昭和16年12月に日本がハワイ真珠湾を奇襲し、マレー半島に陸軍が上陸して、アメリカ、イギリスと戦争を始めました。3年9か月にわたった太平洋戦争は、どのような経緯をたどったのでしょうか。



学徒劳动员 (4分3秒)

戦時中、若者は次々と戦場へ送られ、国内で働く人が少なくなっていました。そのため、学生や生徒を強制的に工場などで働くさせる「学徒勤労動員」を推し進めました。戦元を確保して働く子どもも少なくないのです。

学校で活用する動画集



ホーム » 特集 » 消えた女学校 女子学徒たちの沖縄戦



特集 消えた女学校 女子学徒たちの沖縄戦

1945年（昭和20年）3月からおおよそ3か月間の地上戦で、20万人を超す死者を出した「沖縄戦」。いまの高校生にあたる女学校や師範学校の生徒が、戦場に駆り出され、多くの少女が命を失いました。しかも、戦争が終わっても、生き残った人々が戻るべき母校の多くは消え去っていました。沖縄本島の南部は廃墟と化していたのです。しかし、生き残った女性たちは、その中から立ち上がり、沖縄の復興を支え、

そしてその体験から平和の大切さを伝える活動が続けてきました。戦争当時の少女たちと同じ世代の、高校3年生 宮崎花澄さんが、女子学徒として沖縄本島南部の戦場で過酷な体験をした方と共に、戦跡を訪ねました。花澄さんは、どんなことを感じたのでしょうか。

なごらん学徒隊・宮古高女学徒隊・八重山高女学徒隊の証言者を追加しました。（2014.08.06）



番組 女子学徒たちの沖縄戦（19分26秒）

現在の那覇市域にあった女学校と師範学校女子部に在学していて、沖縄戦に動員された8人の方々の証言をもとに、入学した頃の様子から、沖縄戦、そして終戦後に至るまでの体験を、この番組では時間を追ってたどりまします。この番組をご覧になったあとに、ひとりひとりの女子学徒のみなさんの証言動画を見れば、沖縄戦についてより深く知ることがができます。



宮崎花澄さん | 沖縄県立南風原高校3年生

小さいときから、民謡や琉球古典音楽、琉球舞踊に取り組み、高校でも郷土文化コースで、沖縄の芸能を学び、郷土芸能クラブの部長をつとめています。花澄さん自身のおじいさんやおばあさんは、沖縄戦のときは幼かったため、戦争の記憶がほとんどなく、戦争の話を聞く機会はほとんどなかったそうです。

「十・十空襲」

～1944年（昭和19年）10月～

沖縄が、最初の戦火に見舞われたのは、1944年（昭和19年）10月10日の空襲でした。沖縄全域が空母から発進した爆撃機・戦闘機に襲われ、とくに、集中的に攻撃された那覇市は、灰燼に帰しました。この時多くの学校が校舎を失っています。

そして、年が明けると、高学年の生徒たちは、沖縄守備軍からの求めに応じて看護の教育を受けることになりました。すでにフィリピンで激戦が続き、連合軍の沖縄侵攻が間近に迫っていることが予想され、短期間に厳しい講習が行われました。



当時の話を聞いてみましょう



元梯梧学徒隊の稲福マサさんは、那覇市のほとんどを焼き尽くした十・十空襲を目の当たりにしていました。



稲福マサさん
梯梧（でいご）学徒隊



当時の女学校の紹介 昭和高等女学校（梯梧学徒隊）



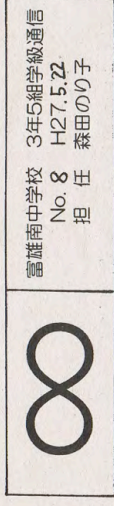
那覇市泊にあった私立の昭和高等女学校は、設立が1932年（昭和7年）と、当時あった女学校の中で最も新しい学校で、商業教育を柱としていました。「梯梧学徒隊」として、17人が陸軍第62師団野戦病院に動員され、9人が亡くなりました。

中学生 修学旅行の事前学習に



2015年5月 奈良・富雄南中学校
(NHK戦争証言アーカイブス)

2017年7月 長野・東御清翔高校
2107年7月 東京・科学技術学園高校など
(琉球新報～Yahoo!ニュース)



3年生になってのテスト。高校入試を意識しての定期テストということもあり、昨年度とはちょっとちがう、緊張感をとも感じた2日間でした。今日の数学のテスト返却を終えて、やっとテストが終わりましたね。

でも終わった後が、実は大切。タイミングを逃さず、間違えたところ、分からなかった問題を直しておくことが、2学期に行われる学力診断テストへ、また高校入試本番へつながっていくのですから。

確かな学力をつけるために、「この問題なら解ける」と確実に得点できる問題を一つ一つ増やしていくことだと思いますよ。自分の点数をきちんと受け止めてしっかり見直しをしておいてくださいな。

さて、いよいよ修学旅行ですね。しおりを手にして、ようやく修学旅行のイメージができてきたと思います。修学旅行実行委員さんは昨年の3学期から、スローガンや 約束事、持ち物の確認や平和メッセージ作成、折り鶴を一つにまとめる作業、そしておりの原稿書きと…何度も何度も委員会を行い、ようやく5月25日を向かえることになりましたね。いろいろありがとう。

私が一番印象に残っているのは、「持ち物のカメラをどうするか?・おかしをどうするか?」の話し合いでした。賛否両論の意見、今までの私たちの行動に足りなかったことを見つける事ができた時間だったと思っています。

だからこそ、自分たちで考えた約束事をしっかりと守っていくべきです。今までも、私たち3年生全員がルールをまもっていません。一部の勝手な行動が雷雄南中学校3年生を否定していくのです。

約束を守れない人が、もしも、声を大にして言っていて下さいます。『いいかげんにして! みんなの修学旅行を台無しにしないで(するな)』と…。集団行動で大切にすべきことは何?もう一度しっかり考えておいてくださいな。

沖縄修学旅行に向けて

テスト前、修学旅行に向けての事前学習の最後として「消えた女学校 女子生徒たちの沖縄戦」をみました。映像でしたが、実際に体験した方のお話はいろいろな考えることも多かったと思います。クラスのみなさんの感想です。(抜粋)



小学生向けの“編集”

🔖 コマごとに読む

👁 アイコンを消す

📺 コマ送り開始

❓ ヘルプ

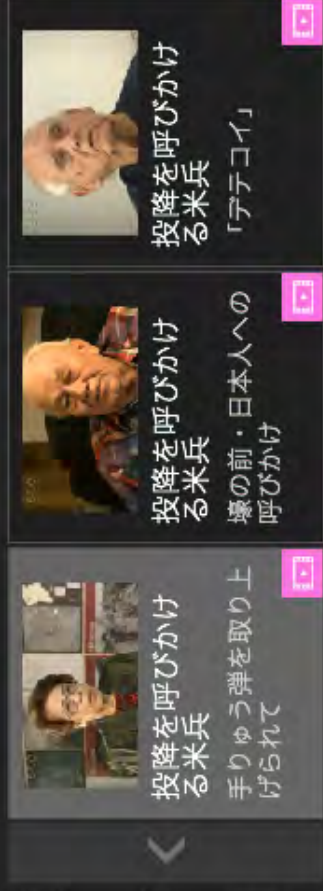
👤 作者について

Copyright NHK Japan Broadcasting Corporation All rights reserved.

マンガで学ぶ戦争体験

小学生のためのキューレーション

投降を呼びかける米兵
手りゅう弾を取り上げられて



教員による実施報告を共有

小学校6年 社会



石川県金沢市立小坂小学校 山口真希 先生

「戦争中、人々はどんな暮らしをしていたのか ～マンガで学ぶ戦争体験～」

※2015年度に実施した授業活動です。



授業のねらい

今年、日本は戦後71年目を迎える。児童の祖父母も戦後生まれであることが多く、高齢化が進み、高齢者から戦争体験を聞く機会が少ない児童にとって、国民生活のすべてが戦争にさげられた事実を理解するのは難しい。

そこで「マンガで学ぶ戦争体験」「戦争証言アーカイブス」を活用して調べ学習をすることで、戦時下の国民生活の様子を知り、苦しい生活を余儀なくされた人々や家族を想像へ送り出した人々の思いをせめたいと考えた。



ウェブサイトの使い方

①単元の導入として、戦争証言アーカイブスの「日本ニュース」第257号を全員で視聴し、原爆投下によって広島市の町が壊滅させられた様子を知る。視聴した感想をもとに「日本がいつかの国と戦った戦争はどのようなものだったか、そのころの人々はどのような生活をしていったか」という学習課題を設定する。

②戦争が世界に広がっていったことを押さえるために、「戦争を学ぶ短編動画」を視聴する。これらの動画は10分以内に短くまとめられているので、子どもたちも集中して視聴することができると。

③戦時中の人々のくらしを調べるために「マンガで学ぶ戦争体験」を視聴する。タブレット端末で見ながら自分のペースでマンガを読み進めていく。このマンガはところどころコマの中にアイコンがあり、アイコンをタップすると関連する動画や写真を見ることができる。と詳しく調べたい際には自由に視聴して理解を深めることができる。調べてわかったことは、「食住」「子どもたちの生活」など項目ごとに表にまとめる。



授業の流れ

項目	分類	内容
1 課題をつかむ	ねらい 手順 指導のポイント	学習課題「戦争の広がりや戦時中の生活の様子について調べる。」を確認する。 「戦争証言アーカイブス」の「戦争」を学ぶ日本ニュース第257号を視聴し、学習課題を考える。 広島の町が壊滅された様子を全員で視聴し、その感想を話し合うことで学習課題につなげる。
2 戦争の広がりを知る	ねらい 手順 指導のポイント	質問を求めてアジアを支配しようとして来東などに対応し、戦争が広がったことを理解する。 「戦争を学ぶ短編動画」の「太平洋戦争」を視聴し、戦争の広がりを年表や地図にまとめる。 少しずつ止めながら視聴し、年表や地図に記入しながら学習を進める。5分23秒の時点までを視聴し、沖縄戦以降は家で学習する。
3 戦時中の生活を調べる	ねらい 手順 指導のポイント	戦時中の生活の様子について調べ、国民生活のすべてが戦争に注がれたことを知る。 タブレット端末で「マンガで学ぶ戦争体験」第1回までを読み、戦時中の生活についてわかったことを表にまとめる。 タブレット端末を活用し、自分のペースでじっくりマンガを読めるようにする。コマから再生できる戦争証言やニュースも自由に視聴し、理解を深める。
4 調べたことを発表し 意見交換する	ねらい 手順 指導のポイント	戦時中の生活の様子について調べたことをもとに意見を交換し、理解を深める。 前の授業で調べたことを発表し、クラスで意見交換する。 「短編動画」「学習出版」「動画配信」など、特に押さえた事項からは「マンガで学ぶ戦争体験」の関連動画や動画を全員で再度視聴する。
5 戦時中の人々の 思いを考える	ねらい 手順 指導のポイント	多くの犠牲を出した戦争が続いた時の人々の気持ちを語り、平和の尊さを考える。 「マンガで学ぶ戦争体験」の最終話を読み、動画「戦時」を視聴する。体験者の証言から、人々の思いや苦しみを知る。 「玉皇宮を愛するが故に涙を流す人」の場面では、涙の理由を考えることでねらいに迫る。 学習の最後には「人々にとって戦争とは何か、自分の言葉でまとめる。」

活用アイデア

gen/summary/e/v/15/

知

NNK

東日本大震災アーカイブス

～EAST JAPAN EARTHQUAKE～

サイト検索

修学

NHKチャネル・サービス

明日へ
—TOMORROW—

- サイトマップ
- このサイトについて
- FAQ
- お問い合わせ

お話をきく

復興の軌跡

空から見た被災地

3.11の映像

防災・減災

放送予定

一覧から見る

お知らせ

災害発生後、空から見た被災地の様子を伝えました。(2015/6/28)

● 動画センター

高台に押し寄せた津波

何で自分だけ助かった。津波が来るときの本当のこと、みんなの事ばかりだったですね。空からは自分から見えなくていいけど、本当にみんなは助かったのかな。

氏名：三浦 登二（男） 89歳
出身地：宮城県栗原市
撮影場所：岩手県花巻市
撮影機材：SONY のビデオカメラ

何が起こったのか

よく再生された動画 2015/6/21 - 2015/7/4

- 3.11 14時46分 東京・秋田
送別会
- 3.11 15時35分 船子所
宮古市 釜石港
- 3.11 15時56分 宮城縣
名取市 新川上笠
- 3.11 16時06分 福島
県磐前山市 飯山町役所
- 3.11 15時56分 宮城縣
刈谷町役所
- 3.11 15時11分 福島県
南相馬市
- 3.11 15時11分 福島県
南相馬市

Copyright © 2016 Yahoo Japan Corporation. All Rights Reserved.

東日本大震災アーカイブス

●震災の記録の「保存と公開」

- ◆災害の記録を公開して、被災地の人々の記憶を留め、復興の支援に資する

●防災・減災のために

- ◆広く、より多くの人々に「あの日 何が起こったのか」「人々はどう行動したのか」を伝え、将来の災害発生時の被害、犠牲を抑えることに役立てる

地域と教育現場で「防災」の学びとして

□ 権利処理不要でどこでもだれもが視聴できる

学校での防災授業や社会人向けのワークショップ、防災専門家による講演での素材

- 12年7月8日 高知県南国市でワークショップ
東北大学 災害科学国際研究所、高知県、南国市
地元から70人が出席 東日本大震災アーカイブスで
「証言」動画などを視聴した後 地域の課題を議論
- 12年6月28日 東京多摩市の中学校で防災授業
避難訓練直後に視聴 その後意見交換など
防災意識を高めることがねらい



※2013年12月14日に沖縄の高校で授業を実施
高校側と授業案を制作 東北大今村教授が監修

アーカイブ上で映像や記録による“循環”



これから起こるであろう「震災」に備えるため、ぜひ「東日本大震災アーカイブス」を活用してください。
これまで学校や地域で活用された事例を映像でご紹介します。

防災授業の事例

- 沖縄県立真和志高校での防災授業



2013年12月、沖縄・那覇市の県立真和志高校での防災を学ぶ授業で、このサイトが活用されました。
沖縄では、西暦1771年、宮古・八重山地方で1万2000人もの命が奪われる津波被害があったうえ、島嶼県ということもあって生活圏の多くが海抜の低い沿岸部に集中しており、地震・津波への備えが強く求められています。

授業では、ニュースの映像を見て地震の揺れと津波の破壊力を学んだあと、震災の体験者の証言を視聴しました。その合間に、担当の先生が配布したワークシートに、生徒たちが動画を視聴して感じたこと、学んだこと、これから取り組もうと思ったことを記入していきます。生徒の皆さんにとっては、映像を見ることで心に響く授業になったようでした。

- 東京都多摩市立聖ヶ丘中学校での防災授業



2012年6月には、東京・多摩市の中学校でも活用されました。
防災授業の前に行われた避難訓練の際に、生徒たちに実施したアンケート調査の結果と、「東日本大震災アーカイブス」の視聴を組み合わせた授業が行われました。このアーカイブスの動画を視聴したことで、防災により真剣に取り組むことにたいへん役立ったと、先生も生徒の皆さんも話していました。



学びの様子をテキストや映像コンテンツで紹介
この映像を参考に授業を再現してもらおう

防災授業の共有



高等学校2年生と3年生 国語表現 I



沖繩県立真和志高等学校

島袋繁奈美 先生

「東日本大震災の教訓から、沖縄での震災の備えを学ぶ」

この授業実践は2014年度に実施したものです。

授業のねらい

沖縄では、琉球王国時代の西暦1771年の八重山地震（明和の大津波）が引き起こした大津波で、宮古・八重山地方で1万2,000人もの犠牲者が出ています。しかも、島々からなる沖縄県は、海岸線は長く、海抜の低い沿岸部が生活圏になっていて、地震や津波に対する備えが強く求められています。今回の授業の「めあて」は、「災害時に自分の身を守るにはどうすれば良いか考える」とし、東日本大震災から教訓を学びます。



ウェブサイトの使い方

「国語表現I」の授業の一環で、2時間にわたって行いました。事前にワークシートを用意し、サイトのコンテンツを視聴しながら、学んだことをまとめていくことにしました。まず、地震と津波のニュース映像を視聴して、実際の地震の揺れの強さ、津波の速さや破壊力を知ることにしました。こうしたニュース映像を見て、地震発生時に取るべき行動と、津波発生に備えて、いかに早く避難行動をとるべきかを学びました。ここまでに1時間目を終了、2時間目には震災を生き抜いた人の証言を聞き、津波発生を意識していなかった妊婦のかたと高校生の証言を聞きました。最後に、琉球大学の中村徹海教授の話の話を聞き、沖縄で特に気をつけるべき点を学びました。



活用アイデア

地震の発生、津波の到来、生き抜いた人々の証言と、順を追って視聴することで、震災当時の様子を知ることが出来ます。そして、想像を遥かに超えた自然の脅威を映像により視聴することで、災害時にどのように行動すべきかを具体的に考えることが出来ます。映像を見ることで文字や写真からはわからない、物が落ちる時の音や津波の轟音、震災を経験した方々の生の声が聴けるので、心に迫ってくるものがあります。また映像を見て学習したことを書き込めるワークシートがあれば、学びが深まり振り返りもできるので、作成してみることがお勧めします。



指導案

項目	分類	内容
1 授業の「めあて」の確認	ねらい 手 順 指導のポイント	授業の「めあて」を確認し、映像から何を学ぶかが方向づける。 白板上に「めあて」を書き出す。 生徒全員が授業を通して学ぶことを共有する。
2 地震の実態を知る	ねらい 手 順 指導のポイント	地震の実態を知り、地震発生時に取るべき行動を学ぶ。 地震が発生している瞬間と、地震によって崩落した建物の映像を視聴し、震災6の強い揺れの実態を知る。 揺れの強さのイメージを共有し、地震発生時にどう行動すれば身を守ることができるかを考える。
3 津波の実態を知る	ねらい 手 順 指導のポイント	津波がどのように襲ってくるのかを知る。 津波発生時の映像を視聴し、津波の押し寄せる速さと破壊力を知る。 揺れが止まった後に津波が来ることを想定し、いかに早く高台や指定避難場所へ避難することが大切なのかを学ぶ。
4 人々の体験から教訓を学ぶ	ねらい 手 順 指導のポイント	震災を乗り越えた人々の言葉から、自分が震災に出くわしたときどうすればよいのかを学ぶ。 体験者の証言動画を複数視聴する。地震発生後、津波が来ることを意識していなかった、岩手県釜石市の町長有馬さんの証言を見る。文は、同世代の当時高校生だった阿部陽人さんの証言を聞き、震災時に1日以上学校に閉じ込められた体験を視聴する。 難名さんや阿部さんの証言から、地震が発生したら津波が起きることを予測し、早く避難行動がとれるようにすることや、人々と助け合うことの大切さを学ぶ。
5 沖縄での地震の特徴を知る	ねらい 手 順 指導のポイント	沖縄で震災が発生した時、何に気をつけるべきなのかを学ぶ。 南西諸島の地震について研究している琉球大学理学部の中村徹海教授のインタビューを視聴する。 沖縄でも大きな地震が起きていることを知る。地震発生時には15分以内に津波が来ることを想定し、避難行動をより早く取ることが身を守る術であることを学ぶ。
6 今まで学んでいる取り組みと、今後、自分がやるべきことをワークシートにまとめる	ねらい 手 順 指導のポイント	自分の震災への備えをまとめ、今後、自分がやるべきことは何なのかを確認する。 今まで学んでいる取り組みと、今後、自分がやるべきことを書き出す。 映像から学んだ教訓を、今後の震災への備えとして活かせるようにする。

学校現場での利用を拡げるために

すべての小中高校、特別支援学校に配布

The cover of the 'NHK Digital Archive 2016 Educational Usage Guide' features a large, colorful hexagonal pattern. Each hexagon contains a different image or logo, including the NHK logo, the 'NHK Digital Archive' logo, and various educational and cultural themes. The title 'NHK デジタルアーカイブス 教育活用ガイド2016' is prominently displayed in the center. Below the title, it states '授業に役立つ動画約15,000本!' (About 15,000 videos useful for lessons!). The bottom right corner features the 'NHK for School' logo. The overall design is vibrant and modern, reflecting the digital nature of the archive.

[illegible][illegible]

NHK東日本大震災アーカイブスを活用した授業の案 沖縄の学校編

NHK東日本大震災アーカイブス <http://www9.nhk.or.jp/311shogen/>

(URLは、Ctrl キーを押しながらクリックしていただくとそのコンテンツが立ちあがります)

このサイトは、東日本大震災を記録し、後世に伝えることを主眼にしています。しかし、もっと大きな目標は、日本全国どこでも起こりうる「次」の災害に備えるために、「教訓」として活用いただくこと、特に若い世代に学んでいただくことです。

沖縄県でも、地震と津波の危険は切迫していると考えられています（琉球大学・中村衛准教授）

ぜひ、沖縄県の各学校でこのサイトを使って防災を学ぶ授業に活用いただきたいと思います。

授業の最大の「めあて」は、「自分の身を守るために」です。

自分の命を守ってこそ、誰かをサポートしたり、避難所の手伝いが出来たりするのです。

「東日本大震災」では、たくさんの人が津波に巻き込まれ、命を落としました。かろうじて助かった人の多くがまさか自分の身にこんなことが起きるなんて、と思っていたといえます。

このサイトの映像や証言を見て、こうしたことがいつ自分の身に降りかかってもおかしくないと考えてください。

■ ニュース

○ 地震

まず、地震の揺れを映像（当日のニュース映像）で知っていただきます。

2011年3月11日、あの日のNHKニュースで、伝えられているのは震度5から震度6の揺れです。

このニュースを見て、自らの安全を確保する時のヒントにしてほしいと思います。

沖縄本島では、2010年2月27日、「沖縄本島近海地震」が発生、糸満市で震度5弱を記録。けが人や住宅の破損もありました。

福島県郡山市の地震発生時のニュース映像



http://www9.nhk.or.jp/311shogen/map/#/evidence/detail/D0007030029_00000

茨城県茨城空港の地震発生時



http://www9.nhk.or.jp/311shogen/map/#/evidence/detail/D0007030037_00000

茨城空港は、震災のちょうど一年前の、2010年3月11日に開港したばかり、見たようにつり天井が落下して、結局この天井は撤去して、そのままにしているそうです。

こうした地震の揺れを伝えるニュースから学べるのは、つぎのことです。

- 1、机の下に入り家具の「脚」をしっかりとつかんで、揺れが収まるのを待つ。
- 2、無理に家具や冷蔵庫などを倒れないように押さえる行為はしない。下敷きになります。
- 3、地震発生途中で外へ飛び出さない→瓦などの落下物でけがをする。

○ 津波

宮城県

名取市の津波 1時間以上経過しての津波と油による火災



http://www9.nhk.or.jp/311shogen/map/#/evidence/detail/D0007030024_00000

このニュースで津波の速さを知ってください。

岩手県

釜石市の津波 地震から 30 分ほど経過して押し寄せた津波



http://www9.nhk.or.jp/311shogen/map/#/evidence/detail/D0007030049_00000

津波の高さが、いかに早く上昇するのかを知ってください。

福島県南相馬

地震から 2 時間程度経過した時点の様子



http://www9.nhk.or.jp/311shogen/map/#/evidence/detail/D0007030032_00000

破壊力の強さを知ってください。

津波について大切なこと

沿岸部の人、すぐに高台や指定された避難場所に逃げる。すぐに行動せずに地震の揺れで壊れたり、崩れたりしたもののあとかたづけをしていて、避難が間に合わず津波に巻き込まれた人が大勢犠牲になりました。

まず、やるべきことは、

- 1、避難場所を確認しておく
- 2、避難訓練に参加して避難所までの経路やその途中に何があるかなどを把握しておく。避難所に着いたら、決して海沿いの地域に戻らない。
- 3、停電等を考慮してラジオや防災無線などで津波の危険性などに関する情報を得る
- 4、津波の危険性があれば、あとかたづけなどはせずにまずできる限り早く高い所へ避難すること
- 5、災害発生時には、家族のことなどが気になってしまい、自らの命を守ることに集中できないので、災害発生時には家族と、全員が必ず避難するということと、連絡場所や落ちあえる場所を日ごろから話し合っておくと、安心して自分一人で行動ができる。

■ 証言

その1

岩手県釜石市

蛭名 有美さん 「絆に守られた妊婦」



http://www9.nhk.or.jp/311shogen/map/#/evidence/detail/D0007010216_00000

この蛭名さんの証言から学べることは何でしょうか。

大きく2つあります。

1つは、福島の内陸部で育った蛭名さんは、地震があると津波が起こるということに意識が及んでいませんでした。地震が起こったらすぐに津波が来ると考えることが大切です。

もう一つは、「助け合う、支えあう」こと、地震や津波の発生時も、その後避難生活でも、助けたり助けられたりして、生き延びます。きずなの大切さをかみしめてください。

その2

宮城県石巻（5分間）

阿部翔人さん 高校生 「校舎に閉じ込められた」



http://www9.nhk.or.jp/311shogen/map/#/evidence/detail/D0007010096_00000

（あの災害を高校生がどのようにうけとめたのかを知ることができ、子供たちは同世代の証言に共感しやすいのではないのでしょうか。）

地震と津波、その後の閉じ込められた過酷な日々をどんな気持ちで、高校生が乗り切ったのか、自分がその時どうすればよいのかを考える、きっかけにしてください。

その3（5 分間）

宮城県気仙沼市

伊東征吉さん 町内会役員 「拡声器で叫び続けた」



http://www9.nhk.or.jp/311shogen/map/#/evidence/detail/D0007010015_00000

地震発生後、即避難することを学んでください。そして津波がいかに早く押し寄せるのか、普段から避難訓練に取り組むこと、地域で災害に対する真剣な思いを共有することの大切さを知ってください。

■ 番組 NHKスペシャル 巨大津波その時ひとはどう動いたか（5 分間）



http://www9.nhk.or.jp/311shogen/map/#/evidence/detail/D0007040002_00000

災害の時に、思い込みや不確かな情報で大きな被害が出ました。

ラジオや防災無線をしっかりと活用してください。

もうひとつ大切なのは、普段から、避難の方法や経路、避難場所を確認しておくことです。

■ 琉球大学 中村准教授による「南西諸島の地震と津波」

最後に、沖縄や南西諸島の地震について研究している「琉球大学 中村衛（なかむらまもる）准教授」のお話を聞いてください。これで「まとめ」とします。



中村先生のお話

- 1、「沖縄は、地震や津波が少ないというのは大きな誤解です。大きな地震や津波がいつ起きてもおかしくないと考え、備えが必要です。」
- 2、「琉球海溝での地震が発生したら、東日本大震災とは違って、すぐに津波が来る可能性があると考えてください。15分程度がめどです。揺れたら指定された避難場所へすぐに行くこと。」
- 3、「若い世代の方が学校で繰り返し津波の怖さを学んでいるので、危険性を知っています。皆さんも、こうした授業で身につけたことを家や地域で生かしてください。」

以下は、担当される先生方へのメッセージです。

■ 全コンテンツを視聴した後に

生徒一人一人の、今できている取り組みと、このコンテンツを見たことで、今後自分がやるべきだと思ったことを書き出してもらうのはどうでしょうか。

それぞれの生徒の生活環境（海から近い、高台にある、家族の中には海に近いところで働いているなど、さまざまな状況があるので）によって、その生徒にとっての防災におけるポイントは変わってくると思います。また、みんなの前で発表しあうと、今度はほかの生徒にとって参考になる話があるかもしれません。

■ 最後に

小学校から高校までの児童生徒のみなさんは、まず、災害と言うものに真剣に向き合う心構えを持つことが大切だと思います。学校や地域の避難訓練に、まじめに取り組むことを身につけてもらいたいと思います。そのためにも、ご紹介したコンテンツは大きく役立つものと思います。

東日本大震災では、明治～昭和と津波による大きな被害を受けた地域であったにもかかわらず、2万人に上る死者行方不明者が出ました。

沖縄も、1771年の八重山地震（明和の大津波）で、先島地方で1万人を超す死者行方不明者が出ました。津波の最大波高は、30mともいわれています。八重山では、住民の3人に一人の命が失われました。本土に比べて、地震が少ないと思われる沖縄ですが、それは大きな誤解で、大きな地震とそれに引き続く津波災害が発生しないという保証は全くありません。

琉球大学の中村先生によれば、実は他の都道府県と比較しても大きな地震の起こる危険性は、なんら変わることはないとしています。大きな地震と津波がいつ起きても不思議ではないと話しています。

また、こうして震災について学ぶことは、沖縄にひんぱんにやってくる大型台風など別の災害への対策に役立ちます。先日の、フィリピンレイテ島を襲った大型台風では、高潮で多くの命が失われました。このときの高潮はほとんど津波のようだったという被災者がいました。津波に備えるということは、こうした水害に備えることにもつながります。

このサイトを、災害にどう備えるのかをしっかりと考えてるツールとして生かしてください。

NHK東日本大震災証言プロジェクト

宮本聖二

電話03-5455-7866

携帯：080-5389-4878

Email:miyamoto.s-fi@nhk.or.jp

監修：東北大学災害科学国際研究所

デジタル・アーカイブによる学び

戦争体験の伝承と語りの継承

○宮本聖二¹⁾²⁾

ヤフー株式会社¹⁾, 立教大学大学院21世紀社会デザイン研究科²⁾

〒102-0094 東京都千代田区紀尾井町1-3

Tel: 03-6898-5433 FAX: 03-3439-1263

E-mail: smiyamot@yahoo-corp.jp

Utilization of “Digital Archive” For the Oral Histories of War

MIYAMOTO Seiji¹⁾²⁾

Yahoo Japan Corporation¹⁾, Rikkyo University Social Design Laboratories²⁾

1-3, Kioi-cho, Chuo-ku, Tokyo 102-0094 Japan

Phone: +81-3-6498-5433 Fax: +81-3-3439-1263

E-mail: smiyamot@yahoo-corp.jp

【発表概要】

戦後71年、戦争体験の伝承と継承が大きな課題になっている。体験者が高齢化し、直接話を聞く機会が失われつつあるからだ。

その中で、デジタル・アーカイブが戦争体験の伝承において重要な役割を果たすと考えられる。筆者は、戦争体験者の証言動画など関連コンテンツにメタデータを付けアーカイブ化、誰もがアクセスできるデータベース、「NHK 戦争証言アーカイブ」を制作した。その後ヤフーに移り、「空襲」に焦点を当てたデジタル・アーカイブを公開した。

NHK とヤフーのデジタル・アーカイブを閲覧することで、戦場から銃後まで日本人の戦争体験を幅広く見聞きすることができる。

しかし、デジタル・アーカイブはそこに「在る」だけでなく、できるかぎり多くの人に活用されなければならない。そのために、様々なキュレーションを施し、ユーザーに利用を働きかけてきた。これまでどのようなコンテンツを作り、利用促進のために何をしたのか取り組みとその効果を報告する。

【キーワード】

デジタル・アーカイブ, オーラルヒストリー, 近現代史, 戦争, 教育

1. はじめに

戦争や震災などの歴史資料、国宝や重要文化財から祭りや民謡などの文化資源をファイル化して未来へ伝えていく「デジタル・アーカイブ」の役割はますます重要になっている。

筆者は、放送局とネットポータルで複数の映像資料を中心にしたデジタル・アーカイブの構築と運営に当たってきた。そうしたなかでデジタル・アーカイブは、利活用がはかられなければ存続させていくことが難しくなっていくことがわかってきた。組織としては、利用者がいなければ、こうした「デジタル・アーカイブ」に対して人手や予算をかけられないからだ。いったん公開すれば不断にコンテンツを加えて「活着している」状態にし、有効な「キュレーション」を施して利用を促さなければならぬ。ここでは、「戦争」に関するデジタル・アーカイブをめぐるどのように利用者を増やし、伝承や継承のためにどういったことに取り組んできたのかその事例と効果について報告する。

2. NHK 戦争証言アーカイブス

2016年で、「アジア太平洋戦争」が終結して71年。この戦争は、アジア太平洋地域にはかりしれない殺戮と破壊をもたらし、日本人310万人を含む2000万もの命を奪ったとされる。生き残った人々にも心身に深い傷を残した。戦場の兵士は破壊や殺戮に手を染め、あるいは飢えや病に苦しみぬき、市民は空襲に襲われ、家族を奪われた。そして、まもなく戦争を体験し語ることのできる人々がいなくなろうとしている。そのとき「デジタル・アーカイブ」が戦争体験の伝承において重要な役割を果たすはずだ。

NHKでは、2007年「戦争証言プロジェクト」を立ち上げ、日本人の戦争体験を体系的に取材し、番組を作り放送してきた。そして取材過程で収集したインタ

ビューをできるだけ「生」に近い形で再編集、ネットの特性を生かしテキストや図を付けてインターネット上で公開したのが「NHK 戦争証言アーカイブス」である。



図1. 「NHK 戦争証言アーカイブス」から証言動画視聴ページ・故 水木しげるさん

2016年現在、この「アーカイブス」で配信される戦争体験の証言者数は1100人を超える。証言動画は長いもので、ひとりで3時間近い証言動画がある。当該番組や戦時中のニュース映画、戦中のラジオ番組もアーカイブしている。

3. ヤフー「空襲の記憶と記録」

ヤフーでは、「NHK 戦争証言アーカイブス」で網羅できずにいた日本人の「空襲体験」を収集しデジタル・アーカイブを構築することにした。2016年夏に公開した「空襲の記憶と記録」である。

空襲体験者の証言を元にしたヤフーオリジナルの番組と全国のケーブルテレビ局が空襲をテーマに制作した番組、そしてその際収集した戦争体験者のロングインタビューを一人一人の生に近い語りを編集して10分前後の証言動画とした。そこに時事通信社の調査による全国の市区町村別の空襲被害のデータ(死傷者数、焼失面積や戸数、攻撃した爆撃機の機数など)を閲覧できるようにした。



図 2. 「ヤフー空襲の記憶と記録」

4. 課題はアクセスの確保

こうしたデジタル・アーカイブは、公開後しばらくはメディアに取り上げられるなどして話題になることで、ある程度のアクセスは確保される。当然「終戦の日」など戦争が話題に上る時期にはページビューは増える。しかし、時間が経過するとアクセスが減っていく。

2011年8月の「NHK 戦争証言アーカイブス」へのアクセスデータを見てみる。



図 3. 「戦争証言アーカイブス」 2011 年 8 月アクセス
8 月 15 日に、ページビュー 8 万 3000 を記録するが、翌日には一気に下がり、8 月末には 1 日あたり 1 万台に落ちた。

ヤフーの「空襲の記憶と記録」も同様である。8 月 15 日に 120 万ページビューを記録したが、翌日には 3 万ページビューに激減した。その後はヤフートップから

バナーが落とされたこともあり、1 日あたりのページビューは数千台で推移することとなった。

手をこまねいていては、8 月の終戦の日前や 12 月 8 日の真珠湾攻撃などの、いわばアニバーサリーだけ視聴されるだけのものとなる。

5. 教育現場での利活用推進

これらのデジタル・アーカイブに戦争にまつわる日や季節に多くの利用があるのはもちろん当然として、つねに一定の数の、しかもまとまった数のユーザーが視聴してくれることを考えると、やるべきことはコンテンツを常に増やし続け、学校の授業など教育の場での利用を進めることである。

まず、月に一度は必ず証言や番組などのコンテンツを追加した。2009 年、68 人で公開を始め、2015 年末証言者は 1100 人を超えた。しかし、コンテンツが増えればデータベースとしては充実していくが、利用者がコンテンツを探すことが難しくなり、利用者数は伸びなくなった。

そこで、教育現場での利活用である。まず、学校で「NHK 戦争証言アーカイブス」を活用する授業を実施してもらうことにした。2011 年 3 月、埼玉県の朝霞第一中学校で、30 年以上のキャリアを持つ中條克俊教諭が「NHK 戦争証言アーカイブス」の証言を視聴する授業を行った。生徒たちは、関東軍と戦後、中国共産党軍に看護婦として動員された女性とガダルカナルで餓えに苦しめられた元下士官の男性の証言を視聴した。

中條教諭は、「戦争体験継承の断絶状況が迫る中、それを解消する教材が、オーラルヒストリーとしての「NHK 戦争証言アーカイブス」であるとしている。¹⁾

この授業についてはその様子を撮影して映像コンテンツにしてサイトで公開している。同じページに「ワークシート」と授業の前に行った生徒への「アンケート用紙」をPDFで閲覧できるようにしてある。同様の授業を、映像を見て再現できるようにしたのである。



図 4.朝霞第一中学校での授業

しかし、これだけでは教育現場での活用は進まなかった。中條教諭のように、「戦争証言アーカイブス」というデータベースからコンテンツを探し出して戦争を伝える授業を組み上げられる経験豊かな教員は現在ほとんどいないからだ。

6. 教育用のページの付加

教員のだれもが戦争を学ぶ授業を展開するために資する特集ページを作ることとし、2013年4月にスタートさせた。「教育活用」と名付けたページである。

多くの教員は平和教育の重要性は認識していても、戦争に関する知識を持つ者は少ない。そこで、5分から7分程度の戦争に関する映像コンテンツを作った。

「太平洋戦争」、「空襲」、「沖縄戦」、「勤労動員」、「疎開」といった番組である。戦争体験の証言の動画を視聴するにしても、そもそも太平洋戦争とはどのように始まり、どのような経過をたどったのかを知らなければ、体験を受け止めきれない。過去のアーカイブ映像を集めて、中学校の社会の教科書に準拠して制作した。

生徒たちが、このページのコンテンツを視聴して戦争に関する基本的な事象を

学び、その後に個々の証言の動画を視聴するという流れを提案したものだ。



図 5. 教育活用のページ

7. 「活用ガイド」の制作と配布

上記の教育活用のページの制作と平行してさらに各地の小中高校の教員の方々に授業を展開してもらった。そして、その授業を「ねらい」、「サイトの使いかた」、「指導案」としてまとめてもらったレポートを冊子にして、全国すべての小中高校、特別支援学校に配布した。2013年の3月のことである。



図 6. NHK デジタルアーカイブ「教育活用ガイド」

教育活用ページの開始とこの冊子の

配布によってアクセス数が一気に増えた。学校での利活用が進んだのだ。

2011年、2012年を通して1日あたりのページビューの平均が4988だったものが、2013年度は8100を超え、2014年度には9000を超えた。授業を実施した教員からは、指導案を報告してもらい次年度の冊子に反映させ、「教育活用」のページで閲覧できるようにした。学校での授業を循環させていくためである。

8. 視聴対象を絞る

証言の動画は時間が長く、戦争に関する用語などもあり、子供や若者には理解しづらい。そこで、証言動画を使ったダイジェスト版の若者向けコンテンツを作ることにした。



図7. 特集ページ「消えた女学校」

筆者は、視聴対象を中学生・高校生に絞った「消えた女学校～女子学徒たちの沖縄戦」という特集ページを制作した沖縄戦と動員された女子学徒の体験をテキストで記述しながら、その間に5分程度に編集した証言の動画を再生できるようにしたものである。「沖縄戦」の特徴は、今の中高生世代の女学校生などが、戦場に動員されたことである。その概要をドキュメントした20分の番組もここに置いた。

琉球古典音楽を学ぶ高校3年の女生

徒が、沖縄戦で軍の病院に看護要員として動員された女性たちを訪ね、沖縄戦について教えてもらうという内容だ。

この番組は、戦争体験者との対話と、過去数年かけて収集した証言の中から関連するインタビューを抽出して組み合わせた、「アーカイブ番組」でもある。

ねらい通り、このコンテンツは沖縄への修学旅行の事前学習で実際に利用された。2015年5月奈良県の富雄南中学校での授業だ。



図8. 奈良市立富雄南中学校での授業

授業を実施した松山美月教諭は、「実際の体験を、現地で聞かせてもらうことを追求したが、語り部の方の高齢化もあり実現が難しかったために、アーカイブスの利用となった」と、直接体験を聞くことが困難になっていることを指摘している。

以下は、松山教諭の報告、「学習の流れ」からの抜粋である。

「事前に映像を見ることで、どのような気持ちで当日の平和学習に挑めばよいのか示しておくことができた。」

「集中して視聴するか危惧したが、実体験の話は本当に心に届くようで、みな集中していた。女子生徒は、自分ももし当時に生きていたらと、自分に置き換えて感じる場所が多かったようだ。映像とはいえ実体験を聞かせることができ、貴重な体験になった。」

9. 小学生に戦争を伝えるには

学習指導要領では小学校6年の授業で第二次世界大戦を学ぶことになっている。ここに応えようと制作したのが「マンガで学ぶ戦争」である。



図 9. 「マンガで学ぶ戦争体験」

サイト内に、マンガのページを置き、東京の商店街で洋品店を営む一家が、昭和16年から終戦まで何を体験したかを描く。長男の戦場体験、長女の日赤看護婦としての沖縄戦での従軍体験。次女は、女学校生として勤労働員され、三女は疎開を体験し、両親は物不足で店を畳む。さらに住家は空襲で焼かれる。全7話で読むことで戦争の様々な局面を知ることができる。

マンガのコマで表現されている場面と関連のある証言などの動画が、▶マークをクリックすることで再生される。映像は1分から1分半。子供たちが理解しやすい部分を抽出して編集を行った。



図 10. マンガから動画が“飛び出てくる”

2014年、石川県の金沢市立小坂小学校でこのマンガを使って授業が行われた。授業を行ったのは教員になって15年目の山口真希教諭授業。ねらいを次のよう

に報告している。

「生活のすべてが戦争に捧げられた事実を理解するのは難しい。戦時下の国民生活を知り、苦しい生活を余儀なくされ家族を戦場に送り出した人々の思いにせまりたい」。²⁾

以下は、児童たちの感想である。

「マンガなので、興味を持って読み進めることができた。」「マンガの方がイメージもしやすいし、登場人物のきもちや戦争の悲惨さがよく伝わった。」

山口教諭は、「アーカイブスは情報が多い分、必要な情報を取り出せないことが多々ある。必要な部分に必要な動画や情報が貼付けられているものは児童にとって使いやすい。」「マンガであることから、登場人物に児童が感情移入しやすく、戦争学習に必要な『事象の押さえ』だけでなく『平和を願う心情』を育成することができる。」と、教育的効果があったと報告している。

10. おわりに

デジタル・アーカイブの利用者を増やすために、様々なキュレーションを施したり、教育の現場に働きかけたりしてきた。その結果、利用する教員の世代など幅が広がり、アクセスが増えたことはログ解析によってわかった。

しかし、本来のデータベースとしてのアーカイブ利用につながらなければアーカイブの本質を生かしきれないともいえる。アーカイブに触れた子供たちが、いずれは戦争をだれかに伝えるときの素材として使うようになる、あるいはこのアーカイブを元に研究に取り組むようになってくれることを期待している。

11. 参考文献

- [1] 「歴史地理教育」2015年 8 月号
- [2] 「NHK デジタルアーカイブス 教育活用ガイド」2015年版